

こんにちは。歴史資料室の村上です。

以前、青森市には二つの「大野小学校」があったというお話をしました。一つは明治9年(1876)に開校し金沢小学校の前身となった学校であり、もう一つは昭和55年(1980)に開校した現在の大野小学校です（詳しくは「あおもり歴史トリビア」第334号をご覧ください）。

このほかにも、青森市には全く同じ校名で異なる履歴を持つ学校が存在しました。それは「市立第一中学校」です。

一つは昭和16年に開校した学校で、校舎は現在の浪打中学校附近（合浦1丁目）にありました。昭和20年の青森空襲の際には校舎が焼失を免れたため、空襲で校舎を失った県立青森中学校（現県立青森高等学校）や市立第二中学校（現県立北斗高等学校）などが教室を借りたといえます。



市立第一高等学校
（昭和20年代後半、
『復興した 新しい青森』より）

そして戦後、新しい教育制度が始まると、戦前からある中学校（旧制中学校）の多くは高等学校となり、市立第一中学校も市立第一高等学校となりました。さらに、昭和44年には市から県へ移管されることになり、県立青森北高等学校と改称しています。その後、昭和59年に現在地（羽白）へ移転しました。

もう一つの市立第一中学校は昭和30年に開校した学校で、校舎は現在の棟方志功記念館附近（松原2丁目）にありました。この第一中学校の開校の背景には市内の中学校の教室不足がありました。

戦後、新しい教育制度に基づいて中学校（新制中学校）が設置されますが、青森市では空襲により多くの小学校が校舎を失っていたため、小学校と中学校の校舎建設を同時に進めなければならず、教室不足の状態が続いていました。その状況を改善するために設置された学校のひとつが第一中学校だったのです。

昭和29年9月に第一中学校の校舎が竣工すると、翌年4月に開校するまでの間は野脇中学校（南中学校の前身校、校舎は青森市文化会館の位置にありました）が分教室のようなかたちで使用しました。当時、野脇中学校は教室不足のために二部授業（生徒を午前・午後など複数回に分けて授業を行うこと）を実施しており、それを解消するために完成したばかりの第一中学校の校舎を使用したのです。

なお、昭和45年には第一中学校と野脇中学校が統合して南中学校となりますが、新校舎（緑2丁目）が完成するまでの間は旧第一中学校校舎を「南中学校第一校舎」として使用しました。

このように、二つの「市立第一中学校」は異なる履歴を持つ学校であり、一方が旧制中学校（現在の高等学校）であり、もう一方が新制中学校であるという制度上の違いもあったのです。

※今回の内容は新青森市史別編教育（別巻）『年表・学校沿革』などを参照しました。